

I-1. 研究概要

1. 研究課題及び研究期間

○研究課題名

課題別研究「ICF 児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究」

○研究期間

平成 18 年度～平成 19 年度

2. 研究の趣旨及び目的

本研究は、WHO（世界保健機関）の ICF-CY（ICF Children and Youth Version, 国際生活機能分類児童青年期バージョン）の教育施策への活用の方向性について検討する開発的な研究である。

2002 年に閣議決定された障害者基本計画において、障害の理解や施策推進の観点から ICF の活用法策を検討する必要性が指摘されて以降、特別支援教育の分野でも様々な活用が図られ、その成果や課題が明らかになってきた。課題の一つとして挙げられるのが、児童期や発達段階の初期にある人にとって、ICF には使いづらい面がある、ということである⁵⁾。このことは既に国際的にも指摘されており、それを補うためのものとして、児童青年期を対象とした ICF-CY の策定が検討されてきており、2006 年 10 月の WHO（世界保健機関）の国際分類ファミリー（WHO-FIC）ネットワーク会議における承認を経て、2007 年 10 月に WHO から確定版が公表された。

一方、日本の学校現場等での ICF の活用実践^{1) 3)}を踏まえ、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会特別支援教育専門部会において、ICF の活用について議論が行われ、2008 年 1 月の中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」²⁾において、特別支援学校の教育課程に ICF の視点を取り入れる旨が報告された。また、厚生労働省の ICF に関する専門委員会（社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会、以下、ICF 専門委員会）でも ICF-CY が主要な議題の一つに取り上げられ、2007 年 12 月の第 4 回会議では、児童青年期領域の専門家の意見を反映させながら、翻訳を含めた国内への適用について議論を開始することが確認される⁶⁾など、ICF-CY 検討の政策的重要性は高いと考えられた。

これらの最近の動向に加え、現行及び前回の学習指導要領の解説書において、ICF の前身である ICIDH（国際障害分類）と、自立活動の前身である養護・訓練との関係が述べられていること⁴⁾も踏まえ、特別支援教育に関するナショナルセンターとしての本研究所において、ICF-CY の教育施策への活用について研究課題として取り上げる必要性が極めて高いと考え、本課題を設定した。

また、これまでの教育におけるこれまでの ICF 活用状況から、次の三つの方向性を想定し、喫緊の教育施策への貢献方策とともに、将来的な教育施策検討のための基礎的な知見の集積を行うことにした。

- ①既に報告されている、児童生徒理解における視点の幅広さによる有効性等、ICF の考え方に基づいた、教育課程の改善・充実等における活用
- ②共通言語としての性格から既に活用されつつある、個別の教育支援計画をはじめとした、多職種との連携における活用
- ③障害のある人だけでなく、全ての人をその対象とし、生活の中での課題等の解決の糸口を探るという考え方に基づいた、通常の教育での活用

3. 研究方法

以下のような方法で研究を行った。

- ①ICF 及び ICF-CY に関する国内外の文献やその他の資料を収集し、整理する。
- ②実地調査や文献研究等を通して、教育及び関連分野における ICF 及び ICF-CY の活用の取組に関する情報を収集し、整理する。
- ③教育施策の動向について情報を収集し、整理する。教育全体をその範疇に置くが、これまでの経緯等を踏まえ、特別支援教育を軸としながら、通常の教育へ広げていくこととした。
- ④後述する研究組織を中心に、協議会やメーリングリスト等を利用した議論を行い、前述の研究の方向性を軸に知見を整理する。

4. 研究体制

以下の体制（敬称略）のもと、研究所内分担者会議や研究協議会、日本特殊教育学会等での直接的な協議を行ったり、メーリングリストや電話を通して情報交換を行ったりしながら、研究を進めた。なお、研究体制を検討するにあたっては、WHO が ICF を翻訳する際に、障害のある当事者を三分の一入れたメンバーで行う規定を作っていたこと⁷⁾を参考に、障害のある当事者、家族、支援団体のメンバーに研究協力を得た。

○研究代表者

徳永亜希雄(企画部主任研究員)

○研究分担者

笹本 健 (企画部上席総括研究員, 副代表)

大内 進 (企画部上席総括研究員)

萩元良二 (企画部総括研究員)

西牧謙吾 (教育支援研究部上席総括研究員)

渡邊正裕 (教育研修情報部研究員)

○研究協力者

- 大関 毅（茨城県立伊奈養護学校，教諭）
- 下尾直子（日本女子大学，学生）
- 佐藤満雄（北翔大学，教授）
- 齊藤博之（山形県立上山高等養護学校，教諭）
- 田中浩二（社会福祉法人のあ保育園，副園長）
- 佐藤久夫（日本社会事業大学，教授）
- 島 治伸（徳島文理大学，教授）
- 伊藤尚志（飯島町立飯島小学校，教諭，19年度のみ）
- 下島かほる（墨田区立向島中学校，教諭，19年度のみ）
- 高山恵子（NPO法人えじそんくらぶ，代表，19年度のみ）
- 富山比呂志（茨城県立つくば養護学校，教諭，19年度のみ）
- 堺 裕（帝京大学，講師，19年度のみ）
- 大久保直子（筑波大学附属久里浜特別支援学校，教諭，19年度のみ）

○研究パートナー

- 秋田県立勝平養護学校（主担当 高田屋陽子）
- 神奈川県立座間養護学校（同 吉田豊）
- 静岡県立中央養護学校（同 川口ときわ）
- 広島県立広島北特別支援学校（同 18年度 溜谷信弘，19年度 戸田定孝）

○研究を進める上で連携した組織等

- 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課
- 厚生労働省大臣官房統計情報部 人口動態・保健統計課疾病傷害死因分類調査室
- WHO，WHO-FIC 及び旧 ICF-CY ワーキンググループ関係者
- ICF-CY Japan Network

（ICF-CY と子ども・家族のことを検討している民間のネットワーク組織）

○その他

- ・英文資料の下訳への協力
安井直子（アメリカ合衆国 ウィスコンシン州立大学マディソン校ワイズマンセンター，スタッフ）
- ・本報告書への執筆協力
遠直美（三重県立草の実特別支援学校，教諭）
春名由一郎（独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター，研究員）

5. 研究の経過

主に以下のような研究活動を行った。

○ICF 及び ICF-CY に関する資料収集

- ・WHO の ICF-CY ワーキンググループより暫定版の ICF-CY の提供を受け，厚生労働省の了解を得た上で研究用資料として翻訳し，内容を検討した。

- ・ WHO や WHO の ICF-CY ワーキンググループ， WHO 国際分類ファミリー（WHO-FIC）関係各国からの関連資料収集
- ・ 厚生労働省担当部局との情報交換
- ・ ICF 北米協力センター会議や WHO 国際分類ネットワーク会議での資料収集と成果報告
- 教育等における ICF 及び ICF-CY 活用についての検討
 - ・ 学校での ICF 及び ICF-CY 活用の取り組みについての現地調査
 - ・ 研究協議会やメーリングリストでの議論
 - ・ Web サイトや学会での発表・シンポジウム開催，雑誌，NISE の研修，各種研修会等での講義・講演等を通じた成果公表
 - ・ 特別支援教育を中心に，ICF を活用した取組を総括すると共に，ICF-CY の概要を整理した冊子の発行
- 教育課程の改善・充実に関しての検討
 - ・ 特別支援教育課内の学習指導要領に関する会議や勉強会等への資料提供及び今後に向けた資料の蓄積
- 学校現場等における ICF-CY の活用に関して
 - ・ 当初想定した方向性の範囲を超えた，方法論についての知見の整理
- その他
 - ・ 厚生労働省担当部局への資料提供

6. 研究期間中に公表した研究成果

(1) Web サイト

以下のようなコンテンツを掲載した。

- ・ 本課題研究に関連した本研究所の取り組みの紹介
- ・ 本研究の実施状況と今後の計画等
- ・ ICF-CY について
- ・ 日本特殊教育学会 第 45 回大会(神戸大会)での自主シンポジウム開催について
- ・ 研究協力者・研究パートナーの追加について
- ・ ICF 北米協力センター会議の参加・発表報告
- ・ 研究協議会実施報告
- ・ 日本教育情報学会に参加・発表報告
- ・ 日本特殊教育学会第 45 回大会での自主シンポジウム・発表報告
- ・ 冊子「ICF 及び ICF-CY の活用：試みから実践へー特別支援教育を中心にー」の紹介

(2) 冊子

「ICF 及び ICF-CY の活用：試みから実践へー特別支援教育を中心にー」（平成 19 年 9 月発行，ジアース教育新社 1,785 円 B5 版 約 240 頁）

(3) 論文等

以下のような論文等を執筆した。

○平成 18 年度

- ・徳永亜希雄：「特別支援教育における ICF 及び ICF-CY の活用動向，課題，そして今後の展望」（日本アビリティ協会，いのちをはぐぐむ支援教育の展望，No143）
- ・Akio Tokunaga 「Trends and Perspective of the Use of International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) on Special Needs Education in Japan」（国立特殊教育総合研究所，Journal of Special Education in the Asia Pacific Vol.2）
- ・徳永亜希雄：「これからの自立活動－中教審での議論や ICF の動向等を踏まえて－」（IEP JAPAN Vol.21）
- ・秋田県立勝平養護学校（研究パートナー校）：研究紀要「かつひら」第 29 集

○平成 19 年度

- ・徳永亜希雄：「ICF の教育への活用－ICF-CY の動向も踏まえつつ－」（発達障害研究，第 29 巻，第 4 号，218-227）
- ・下尾直子（研究協力者）：「『個別の教育支援計画』への ICF 活用」（発達障害研究，第 29 巻，第 4 号，254-261）
- ・徳永亜希雄：「連載講座①：肢体不自由教育における ICF の活用－ICF（国際生活機能分類）の概要を整理する－」（肢体不自由教育，第 183 号，42-45）
- ・徳永亜希雄：「連載講座②：肢体不自由教育における ICF の活用－ICF の活用動向と今後の展望－」（肢体不自由教育，第 184 号，40-42）
- ・佐藤満雄（研究協力者）：「北海道の特別支援学校における I C F の活用と課題」（情緒障害教育研究紀要，第 27 号，97-104）
- ・秋田県立勝平養護学校（研究パートナー校）：研究紀要「かつひら」第 30 集
- ・徳永亜希雄・田中浩二（研究協力者）：ICF 及び ICF-CY を巡る国際的動向 —ICF 北米協力センター会議，ICF-CY 会議及び WHO 国際分類ファミリー会議の概要を中心に—（本研究編 世界の特別支援教育 22）

(4) 学会発表

○平成 18 年度

- ・徳永亜希雄：「ICF-CY（児童青年期版）の策定動向と特別支援教育における活用」（第 44 回日本特殊教育学会，平成 18 年 9 月）
- ・渡邊正裕・徳永亜希雄・下尾直子・齋藤博之（以上 2 名研究協力者）他：「教育用 I C F データベース e-ANGEL の試作と評価」（第 44 回日本特殊教育学会，平成 18 年 9 月）
- ・徳永亜希雄・齋藤博之・下尾直子（以上 2 名研究協力者）他：「自主シンポジウム：I C F（国際生活機能分類）の学校現場への適用Ⅲ～I C F 導入の成果を問う～」における話題提供，（第 44 回日本特殊教育学会，平成 18 年 9 月）
- ・渡邊正裕・徳永亜希雄・下尾直子・齋藤博之（以上 2 名研究協力者）他：「教育用 ICF データベース e-ANGEL の試作と今後の開発方針」（ATAC カンファレンス 2006 京都テキスト，平成 18 年 12 月）

○平成 19 年度

- ・佐藤満雄(研究協力者)：北海道特別支援教育学会 学会企画シンポジウム「ICF（国際生活機能分類）の教育への活用」（座長，平成 19 年 7 月）
- ・渡邊正裕・富山比呂志（研究協力者）・齊藤博之（研究協力者）・大久保直子（研究協力者）・下尾直子(研究協力者)・徳永亜希雄:「教育用 ICF データベース e-ANGEL の ICF-CY への対応とインターネットでの公開について」（教育情報学会第 23 回年会，平成 19 年 8 月）
- ・自主シンポジウム（日本特殊教育学会第 45 回大会，平成 19 年 9 月）
「ICF（国際生活機能分類）の学校現場への適用Ⅳ—小・中学校等での活用の可能性を探る—」
（企画者・司会者）徳永亜希雄
（話題提供者）伊藤尚志（研究協力者，以下同じ），下島かほる，齊藤博之，高山恵子
（指定討論者）下尾直子氏（日本女子大学大学院，研究協力者）
- ・徳永亜希雄：ICF-CY（児童青年期版）の策定動向と特別支援教育における活用Ⅱ（日本特殊教育学会第 45 回大会ポスター発表，平成 19 年 9 月）
- ・齊藤博之（研究協力者）：「特別支援学校のセンター的機能における ICF 活用—子どもをどのように理解し，どのように支援につなげるか—」（同）
- ・下尾直子（同）：「連絡帳記述文の ICF による分類～ICF を活用した連携の可能性を探る～」（同）

（５）国際会議での発表

○平成 18 年度

- ・Akio Tokunaga, Yutaka Sakai (Teikyo University), Rune J. SIMEONSSON, PhD (University of North Carolina at Chapel Hill, U.S.A.): Environmental Factors in Special Education Policy in Japan」(12th Annual North American Collaborating Center Conference on ICF, (ICF 北米協力センター会議，平成 18 年 6 月, カナダ)

○平成 19 年度

- ・Akio TOKUNAGA, Ken SASAMOTO, Susumui OOUCHI, Ryouji HAGIMOTO, Kengo NISHIMAKI, MD, WATANABE Masaihiro, Koji TANAKA, PhD (Noah Nursery School :Kyusyu University, Japan, 研究協力者), Rune J. SIMEONSSON PhD (University of North Carolina at Chapel Hill) : Implementation of ICF and ICF-CY on Special Needs Education (SNE) in Japan (13th Annual North American Collaborating Center Conference on the ICF (ICF 北米協力センター会議, 平成 19 年 6 月, アメリカ)
- ・Akio TOKUNAGA, Ken SASAMOTO, Susumu OOUCHI, Ryouji HAGIMOTO, Kengo NISHIMAKI, MD, Masahiro WATANABE, Rune J. SIMEONSSON, PhD (University of North Carolina at Chapel Hill, U.S.A.) : Implementation and Future Strategies of ICF-CY for Special Needs Education (SNE) in Japan (ICF-CY 会議及び WHO 国際分類ファミリーネットワーク会議, 平成 19 年 10 月, イタリア)

(6) 研究所の研修での活用

○平成 18 年度

- ・渡邊正裕「特別な教育的ニーズと情報機器活用」(第 1 期短期研修共通講義, 平成 18 年 5 月)
- ・西牧謙吾「教育と福祉・医療・労働の連携」(長期研修, 平成 18 年 5 月)
- ・徳永亜希雄「寄宿舎における生活支援と ICF」(盲・聾・養護学校寄宿舎指導員指導者講習会, 平成 18 年 7 月)
- ・徳永亜希雄「障害児指導法特講: 身体の動きと指導の実際」(長期研修, 平成 18 年 9 月)
- ・笹本健「重度の肢体不自由のある子どもの身体運動の捉え方」(第 2 期短期研修 肢体不自由・病弱教育コース, 平成 19 年 2 月)
- ・西牧謙吾「『医教の連携と協働』の在り方と実際」(第 2 期短期研修共通講義, 平成 19 年 2 月)
- ・徳永亜希雄「障害観の変化と身体へのアプローチ」(第 2 期短期研修 肢体不自由・病弱教育コース, 平成 19 年 3 月)

○平成 19 年度

- ・笹本健: 重度・重複障害のある子どもの身体運動のとらえ方(平成 19 年度 専門研修肢体不自由・病弱教育コース, 平成 20 年 1 月)
- ・徳永亜希雄: ICF の視点から見た身体へのアプローチ(平成 19 年度 専門研修肢体不自由・病弱教育コース, 平成 20 年 1 月)

(7) 研修会等での講義等での活用

○平成 18 年度

- ・徳永亜希雄・萩元良二: 特別支援教育における ICF 及び ICF-CY 活用の現状と課題(神奈川県立中原養護学校研修会, 平成 18 年 6 月)
- ・徳永亜希雄: ICF/ICF-CY と神奈川県立座間養護学校高北研究(神奈川県立座間養護学校研修会(研究パートナー校), 平成 18 年 6 月)
- ・徳永亜希雄: 特別支援教育の動向と肢体不自由教育(中部地区肢体不自由教育研究協議会研究大会, 平成 18 年 10 月)
- ・渡邊正裕: 特別支援教育 IT 活用講座: 特別支援教育とアシスティブ・テクノロジー(主催: 福島県養護教育センター, 平成 18 年 11 月)
- ・徳永亜希雄: ICF の視点から見た肢体不自由教育(東京都立北養護学校研修会, 平成 18 年 11 月)
- ・徳永亜希雄・渡邊正裕, ICF 及び ICF-CY について(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課内研修会, 平成 18 年 12 月)
- ・齋藤博之(研究協力者), 分科会報告「ICF をモデルにした支援の取り組み~ICF 活用をめざして~」への指導助言,(神奈川県立麻生養護学校公開研究会, 平成 19 年 1 月)
- ・大内進・大関毅(研究協力者), 寄宿舎での ICF 活用」についての指導助言(静岡県立静岡中央養護学校寄宿舎研修会, 平成 19 年 1 月)
- ・徳永亜希雄・笹本健「『ICF 児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究』進捗状況及び今後の計画」,(国立特殊教育総合研究所セミナーⅡ, 平成 19 年 2 月)

○平成 19 年度

- ・渡邊正裕：ICF/ICF-CY を用いたツール（e-ANGEL）等の紹介（EATSS(Educational Assistive Technology Society for Special needs) 第 1 回研究会，平成 19 年 6 月）
- ・高田屋陽子（研究パートナー校職員）：ICF を活用した実践と研究内容について（秋田県特別支援学校研究主任連絡協議会，平成 19 年 7 月）
- ・徳永亜希雄：寄宿舎における生活支援の在り方—ICF の概念と活用法—（青森県総合教育センター寄宿舎指導員研修講座，平成 19 年 7 月）
- ・徳永亜希雄・大内進：寄宿舎を巡る動向と ICF の活用（静岡県立中央養護学校研修会（研究パートナー校），平成 19 年 8 月）
- ・斎藤行正（研究パートナー校職員）：ICF を活用した実践について（秋田県立勝平養護学校主催・夏季休業中職員研修，平成 19 年 7 月）
- ・徳永亜希雄：肢体不自由教育における ICF の活用（千葉県特別支援教育研究会肢体不自由教育研究部全体研修会，平成 19 年 8 月）
- ・徳永亜希雄：ICF の理解と教育への活用動向（広島北特別支援学校研修会（研究パートナー校），平成 19 年 9 月）
- ・徳永亜希雄：ICF の考え方と支援の在り方（静岡県 障害のある子どもの能力発掘・開発事業 輝き発見！講演会，平成 19 年 9 月）
- ・徳永亜希雄：ICF の理解と学校での活用について（神奈川県特別支援学校校長会研究協議会，平成 19 年 9 月）
- ・徳永亜希雄：ICF の概要と教育への活用動向（大阪府養護教育研究会秋季教育講演会，平成 19 年 10 月）
- ・徳永亜希雄：ICF の理解と教育への活用動向（広島北特別支援学校研修会（研究パートナー校），平成 19 年 10 月）
- ・徳永亜希雄：教育における ICF の活用動向と ICF-CY の概要（日本建築学会ノーマライゼーション環境小委員会，平成 19 年 10 月）
- ・秋田県立勝平養護学校（研究パートナー校）：公開研究協議会「豊かな生活を目指した個のニーズに応じた教育支援—ICF 活用による焦点化された課題の授業への展開と評価—」（平成 19 年 11 月）
- ・徳永亜希雄：特別支援教育における ICF の活用（秋田県立勝平養護学校公開研究協議会，平成 19 年 11 月）
- ・徳永亜希雄：ICF の理解と学校での活用（川崎市特別支援教育研究会講演会，平成 19 年 12 月）
- ・徳永亜希雄・大内進：ICF の特別支援教育への活用と ICF-CY の動向（日本リハビリテーション連携科学学会研修会，平成 19 年 12 月）
- ・徳永亜希雄：ICF の視点から見たこれからの肢体不自由教育（日本肢体不自由教育研究会肢体不自由教育研究セミナー，平成 19 年 12 月）

引用文献

- 1) 秋田県立勝平養護学校：かつひら 平成 17 年度（第 27 集）～実践と研究のあゆみ～，研究主題「個の可能性を見つめ，豊かな生活を送るための教育支援について」～個別の教育支援計画を基にした個別の指導計画を授業に生かす取り組み～，2006.
- 2) 中央教育審議会：幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)，136，2008.
- 3) 独立行政法人国立特殊教育総合研究所・世界保健機関(WHO)編著:ICF(国際生活機能分類)活用の試み，ジアース新社，2005.
- 4) 文部省：特殊教育諸学校学習指導要領解説—養護学校（肢体不自由教育）編一，海文堂出版，401-402，1992.
- 5) 徳永亜希雄：教育における ICF，すべての社会，10，102-103,2003.
- 6) 社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会第 4 回委員会資料，2007.
- 7) WHO 国際障害分類日本協力センター訳：WHO 国際障害分類第 2 版 生活機能と生活の国際分類，2000.

(徳永亜希雄，笹本健，大内進，萩元良二，西牧謙吾，渡邊正裕)